

# 薬草や漢方薬から見てくるもの ～漢方薬・薬草新聞の発行に取り組んで～

鶴田 総宏 (  肝付やぶさめ薬局)

薬草や漢方薬について知ってもらう意味で当薬局が作成した「漢方薬・薬草新聞」を月3～4回配布。 創刊:平成30年1月

- 薬草
- 生薬(植物基原・動物基原・鉱物基原)
- コラム<随時>
- 時事ネタシリーズ<随時>

※参考のためにお手元の資料には、令和4年1月～8月の各1回分だけを添えさせております。







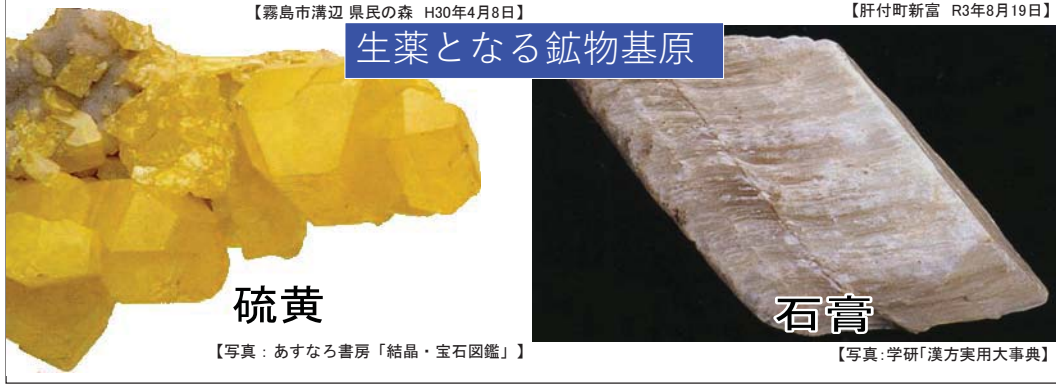
## 生薬となる動物基原

露蜂房

蟬退

【霧島市溝辺 県民の森 H30年4月8日】

【肝付町新富 R3年8月19日】



## 生薬となる鉱物基原

硫黄

石膏

【写真：あすなろ書房「結晶・宝石図鑑」】

【写真：学研「漢方実用大事典」】

## 時事ネタシリーズ



R4年2月発行② 第149号



## 時事ネタシリーズ



R2年2月発行③ 第78号



肝付町



【宮崎県小城市 産薬・地域作物センター】

## コラム



R4年8月発行 第169号

ハスとはどのような植物なのか。ハスにまつわる読み物として、漢方薬とむすびつけた。

R4年6月発行 第161号

タイトルを工夫してみた。ピタゴラスの性格とソラマメについて。身近なソラマメとは。





R4年4月発行③ 第156号

話題その40

スイセン類による食中毒

毎年のことですが、4月ごろから有毒植物を山菜と間違えて食べたことによる食中毒が発生します。また、家庭菜園や学校でも、変色した芽が出たジャガイモでの食中毒が多いです。

今年も、4月7日に京都市内の子育て支援施設で、ニラと間違えてスイセン類の植物を食べ、子ども12人が食中毒になりました。

スイセン類の葉はニラ、球根が玉ねぎと似ており、有毒成分が含まれています。

スイセン

ニラ

【写真：長野市保健所 生活衛生課】



スイセンの球根

【肝付町新富 R2年3月12日】



ラッパスイセン

ニギハヤシスイセン

【肝付町新富 R2年3月8日】

話題その29



R2年2月発行② 第77号

先日、伊集院保健所管内で、園芸植物グロリオサを誤って食べた80代の男性がコルヒチン中毒で亡くなりました。自宅庭のヤマモモと間違えた可能性があるということです。

グロリオサはイヌサフラン科植物で、コルヒチンと呼ばれる毒を含んでいます。



グロリオサの葉

【写真：学研「日本の有毒植物」】

またイヌサフランの根を誤食して死亡するケースが毎年発生しています。イヌサフランの球根がイモや玉ねぎに似ているからです。



イヌサフランの根

【写真：厚生労働省】

“食用”と確実に判断できない植物を食べないようにしましょう。



カシワ

【宮崎県小林市 薬草・地域作物センター R4年6月18日】



ミツケイ

【熊本大学薬用植物園 R4年6月22日】



サクラ

【肝付町新富 R2年4月5日】



サトルイバラ

【熊本大学薬用植物園 R3年8月11日】



キンカン

【南大隅町川南 R4年12月4日】



ステビア

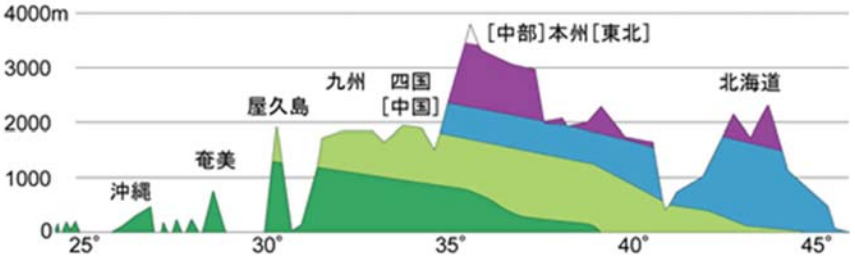
【宮崎県小林市 薬草・地域作物センター R2年7月19日】



日本は生物多様性植物分布として世界的に注目されている。日本に分布する維管束植物(シダ・草本・木本)は約5600種以上に及び、その約30%は日本だけに分布する固有種である。

鹿児島県3800種以上、熊本県2100種以上

【参考資料：鹿児島大学総合研究博物館研究報告No.17 「鹿児島県の維管束植物分布図集」】



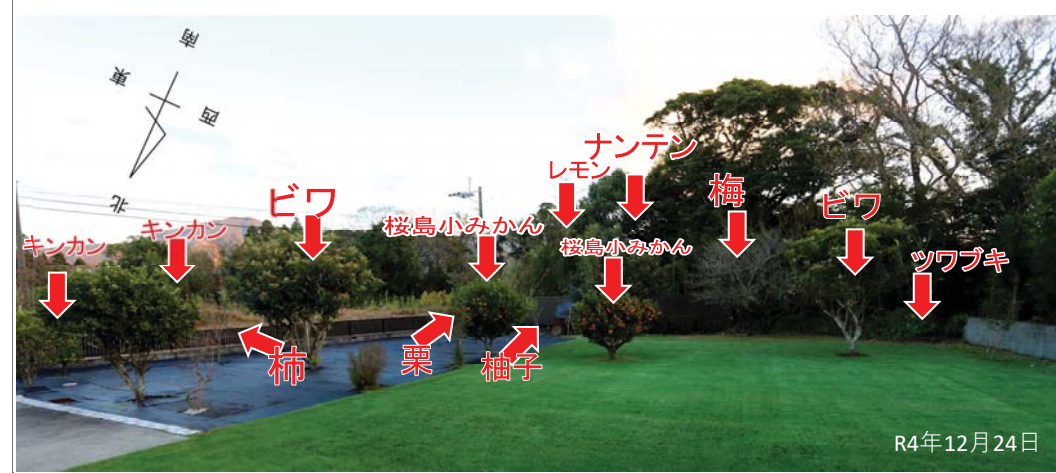
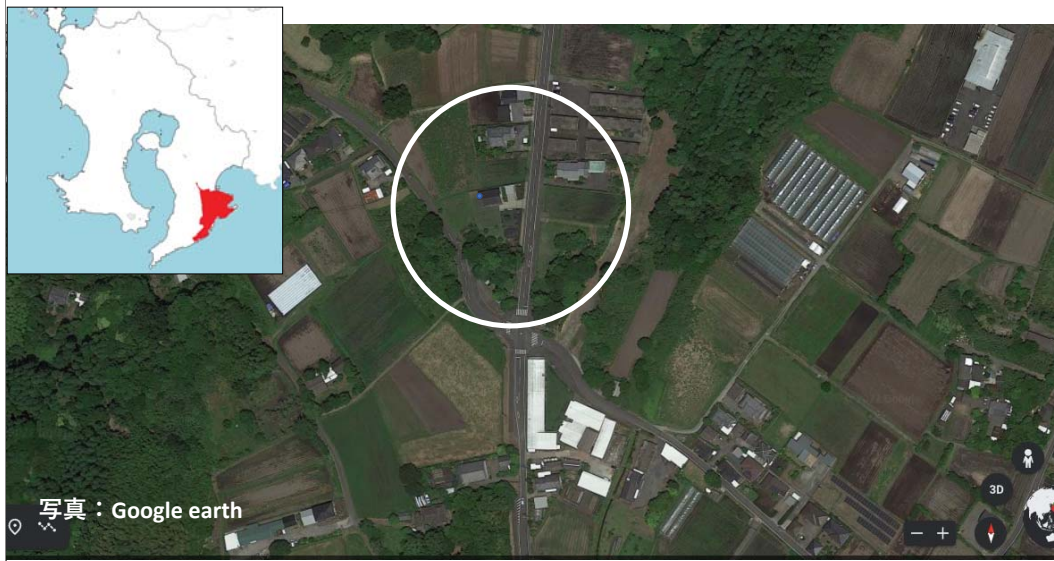
日本の高度・緯度による自然植生図

【出典：「日本の植生、宮脇昭 編、昭和52年」を改変】



# Field survey

有用植物や動物から薬草や生薬になるものを探してみる  
自宅（肝付町新富）を中心に半径100m以内（標高26m）



自生と栽培 } 40kinds of vascular plant  
3kinds of animal crude drug



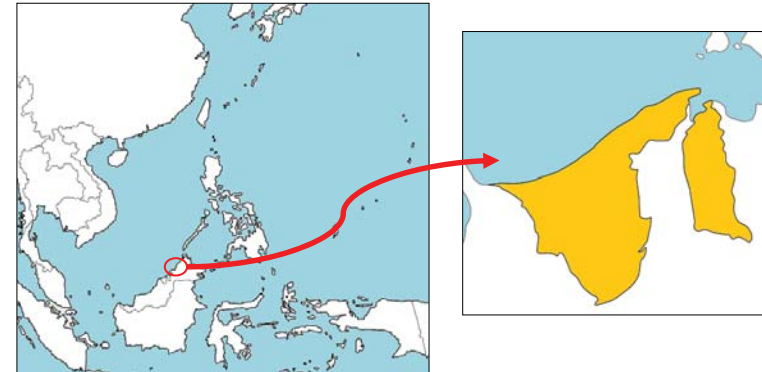
柿の葉にまつわる記事を紹介。平成30年8月18日読売新聞朝刊の読者投稿欄からで**柿の葉の煎じ薬**が毒消しとして原爆の放射能に効く、といった内容である。昔から柿の葉が健康に良い、と言われていますが、果たして放射能にも効果があるのでしょうか。

柿の葉せんじ薬  
すがった被爆者  
無職 83  
(長崎県佐世保市)  
終戦時、私は国民学校5年生でした。夏休みも終わる頃、見知らぬ人が訪ねてきて「庭の柿の木の葉をいただけませんか」と頼まれました。翌日も、また翌日も、多くの人が来ました。母が「葉をどうされるのですか」と尋ねると、「せんじて飲めば、原爆の放射能に効くのです」との答え。母は絶句したそうです。5本の木の葉を取り尽くし、最後は、高さ8メートルの上部に葉がわずに残るだけ。ある夕方、小柄なおはあさんが、やはり柿の葉がほしいと来ました。高くて細い木に登るのが怖く、尻込みした私に、「取ってあげなさい」と母の厳しい言葉。ホッとした笑みを浮かべ、何度も頭を下げながら帰って行く後ろ姿は、73年たった今でも思い出します。翌年、柿の葉をもらいに来る人は誰一人いませんでした。わが家のせんじ薬は、被爆者に一瞬の希望を与えることができたのでしょうか。今年も長崎原爆の日を迎えました。

H30年9月発行③ 第27号に掲載

## 身の周りにはいろいろな薬がある

2010年、新薬探しに熱心な国が注目を浴びた。その国とは熱帯雨林気候のブルネイ王国(=地図)。自分たちの国の密林から薬になる可能性の高いものが発見されれば多大な利益が生まれる。近い将来、石油の枯渇が問題になるこの国は、新薬開発に力を入れている。



- 薬用作物等の収益性が成り立つ栽培技術の開発。
- 優良系統の選抜、栽培方法及び利用方法を検討し、情報を提供。
- 生産性向上や、高付加価値化への取り組み。

漢方薬や薬草がどのような用途で使われているのか。また日常生活との関連性を知ってもらう意味でも「漢方薬・薬草新聞」は発信メッセージとして重要な役割を担っていると考える。

薬草や漢方薬などを知ることで未来に貢献できるのではないか。